

2022年度病院勤務医の負担軽減の計画

2023年5月1日 京都市民医連中央病院

項目	現状	目標	達成状況
			2023年3月
医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担の具体的内容	退院支援ラウンド:毎週火水木の午前中ラウンドしている。	退院支援ラウンド:毎週火水木の午前中ラウンドしている。医師、看護師、地域医療連携課も含め多職種で行う。	継続できた。
医師事務作業補助者の体制拡充	業務拡充のため複数の補助者を担当科ごとに分担したが、退職や産休等で現状維持から拡大できず。	多職種とチームでタスクシフトしながら業務軽減につなげる。診療支援課の増員を継続募集する。	少しずつ業務拡大出来ている。
勤務計画、連続当直を行わない勤務体制の実施	内科外科の連続当直を行わない体制は維持できている。新内科専攻医5名、外科医2022年1月～3名増。引き続き医師の確保に努める。	内科外科の連続当直を行わない体制は維持できている。引き続き医師の確保に努める。	連続当直を行わずに維持できている。
勤務間インターバルの確保	基本的には早期帰宅している。コロナ禍で職員家族の濃厚接触も発生したため体制の厳しい時期もあり。	引き続き超勤時間の削減を目指す。	1名が80時間越えとなり、産業医面談を行った。
予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮	非常勤医師を確保し、予定手術前日の当直は外す努力をしている。	日勤帯の当番、当直の医師確保を継続して行う。	医師確保がなかなか厳しい状況。引き続き努力する。
当直翌日の業務内容に対する配慮	当直翌日の朝は業務フリーおよび午後の勤務免除、もしくは一週間以内に半日勤務免除の制度がある。	当直翌日の朝は業務フリー。当直翌日午後の勤務免除もしくは一週間以内に半日勤務免除の制度があり、継続する。	外科系で常勤退職があり体制が厳しくなった。配慮できるよう取組む。
主治医制の見直し実施	専攻医に上級医との複数担当、時短取得医師にも複数担当、少数科の複数制など実施	紹介逆紹介しながら、地域の診療所・クリニック等との複数主治医制を行う。院内の入院主治医複数担当を広げていく。	紹介・逆紹介を着実にやっていった。継続して行う。
短時間正規雇用医師の活用	6名を維持	7名	育児休暇取得者の復帰で、7名となった。
非常勤医師の確保	常勤換算で13.86名にとどまった。	常勤換算18%を目指す。	常勤換算18.7%確保できた。
トラブル対応の際の支援体制の強化	出来ている。	引き続き体制を確保し、トラブル対応の質の向上をはかる。	出来た。引き続き質向上を図る。